



シリーズ「秋の夜空の変光星」:その2

くじら座のふしぎい～な星「ミラ」

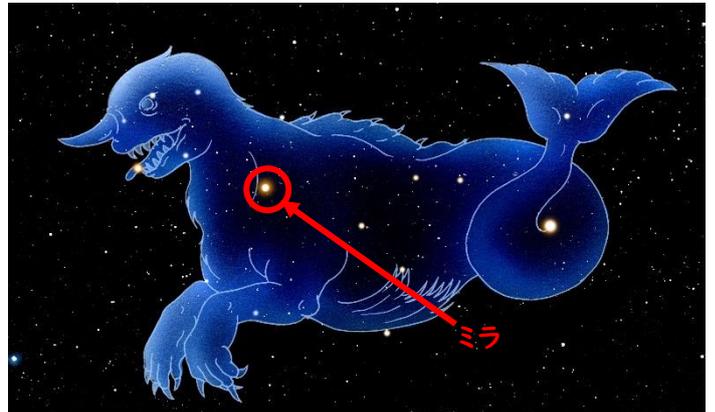
ミラ…ラテン語で「不思議」「驚き」を意味する言葉です。そんな名前がついた星が秋を代表する星座「くじら座」にあります。ちょうど、くじらの絵の心臓の辺りに位置する星で、明るさが変わる変光星としては1596年に初めて発見された記念すべき星でもあります。当時の天文学者にとっては、余程不思議で驚きの星だったのでしょ。

ミラは約332日という1年よりも少し短い周期で明るさが変わることがわかっています。どのように明るさが変わるかというと、

星が膨らんだり、縮んだりしているのです。このような変光星のことを「脈動変光星」と呼んでいます。

人が眼で見ることが出来る明るさの星は1等から6等までですが、ミラが一番暗いときは約10等になるので、望遠鏡を使わないと見ることはできません。逆に一番明るくなる時は、約2等にまで明るくなるので、都会でもじっと空を眺めると見つけることができるでしょう。私も明るいときにギャラクシティから見つけられたことがあります。

明るさに「約」とつけているのは、明るさが毎回同じようになるとは限らないからです。3等ぐらいまでしか明るくならないときもあれば、1等の星と同じくらい明るくなった時もあったそうです。また、周期もばらつきがあり一番明るくなる予想日より1ヶ月早くなったこともあります。あまり周期に拘らず、観察してみると良いでしょう。



【くじら座】

イラスト:高部哲也

2021年12月6日記 (解説員:伊藤 貴大)